



～小中学校の実践から子どもたちの学力向上への「進路」を示す～

第6号

学びのコンパス



今号では、新学習指導要領の改訂ポイントの1つである「主体的・対話的で深い学び」を軸に「確かな学力」の定着・学力向上の推進を図っている3校の取組を紹介します。

最終面には、「全国学力・学習状況調査」の結果概要を掲載していますので、あわせてご覧ください。

事例15

松原中学校の実践例から……

全教職員で共通理解を図り、主体的・対話的で深い学びへ



松原中学校では、4人班による「コの字型」の座席を活かした協働的な学びを展開することで、生徒の学ぶ意欲が向上し、活気のある授業がみられるようになりました。

思考力・判断力・表現力等を育むための言語活動中心の授業

授業展開を考えるうえで大切にしていることは、時間がかかる課題に取り組むことを通して、教科書に即した基礎基本を習得させることです。また、友達との対話により考えを深める時間をとることで、個々の学びを深めていくことを目指しています。



1 4月当初、学習指導部主催の研修会において

- ① 前年度の具体的なグループでの活動例を提示し、課題等を共有。
- ② 単なる班活動とは違う、学び合う協働学習と学び合いの効果を説明。
- ③ 生徒向けの「学びのルール」を共通理解。

2 授業での課題設定ポイントを示し、年2回の公開授業週間に他教科も含め教職員同士でチェック

授業後に参加者と授業者で以下の内容で意見交換します。

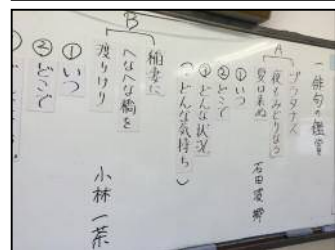
ポイント

- ① 教科の「見方・考え方」や教材のねらいに根差しているか
- ② 生徒が夢中になって取り組めるものか（実社会、実生活に即した課題か、答えが複数ある課題か）
- ③ 「何を考えるか」生徒へ課題が明確に示されているか
- ④ 「学び合い」が必要になる（高いレベルの）課題か
- ⑤ 「わからなかったこと」を理解へと導く仕掛けがあるか

「あっそうか！」と思える授業は生徒の印象に残ります。生徒同士の話し合いや、実験、写真の提示、図示など、授業内容に応じた適当な方法で「わかる喜び」を実感させます。

3年生国語科の授業の一例 「俳句の可能性」（5時間設定）

- 【1時間目】初見の俳句に出てくる言葉を根拠にして、俳句の情景を想像する。教科書を使って、俳句の約束事をまとめる。
- 【2時間目】教科書の鑑賞文をもとに、俳句の魅力を自分の言葉で表現し、全体で共有する。初見の俳句で、「作品の良さをわかりやすく伝える」鑑賞文を書く。
- 【3時間目】書いた鑑賞文を班のメンバーに見せ、アドバイスをもとに推敲する。同じ俳句を選んだ者で、相互に読み方を比較し、より深く俳句を鑑賞する。
- 【4時間目】学習したことを活かした俳句の創作をする。
- 【5時間目】創作俳句の工夫点・作った経緯とともに自分の作品を発表し合い、相互に評価をする。



事務職員等も参加して教職員一丸となった研修体制

年2回の公開授業週間だけでなく、年間を通した学習指導の校内研修には、教員に加え、事務職員等も参加し、全教職員で生徒の学びについての意見を出し合います。

参加した事務職員も、学校の教育課題や教職員の要望、授業で使う教材・教具等を把握することができます。全教職員のベクトルを合わせて、学校体制で生徒の学力向上を目指します。

事例 16

葵小学校の実践例から……

アクティブ・ラーニングで授業改善・充実へ

葵小学校では、子どもたちが「どのように学ぶか」を重視し、「アクティブ・ラーニング」の視点から全教科・領域を通して、授業の改善と充実を図り、学力向上につなげています。

研究組織の充実 3つのUnitで取り組む

全教職員が3つのUnitにわかれ、深い学びを促す3条件を研究

Unit 1 「適切な課題設定」

「深い学び」を実現する鍵となる、追究しがいのある魅力的な課題を子ども自身が創り出すための授業設計を研究。

Unit 2 「コミュニティの感覚」

*コミュニティとは、子どもたち同士の協働性を指します。

協力・協働を通して自分の学びを高めていくために、コミュニケーション力の質の向上を目指す。特に子どもからの「問い」を深めていく力を研究。

Unit 3 「多様な情報処理ツールを使った学び」

ICT 機器、ホワイトボード等多様な情報処理のツールを使い、対話的な学びへと子どもを導く方を研究。



●各Unitの企画提案を受け、授業改善として全教職員が以下の取組を行っています●

主体的・協働的な学びの実現へ

「コミュニティボード」の活用

透明のシートの下にテキストを挟み、シートの上から自由自在に互いの意見や疑問点などを書き込んだり、図示したりすることができる「コミュニティボード」で思いや考えを可視化。



加筆修正が簡単で、そのまま黒板に掲示して説明や報告ができます。このボードを使うことで、グループでの議論や討論が活発になり、思考が深まります。

メタ認知し改善する方向へ

「学級力アンケート」の活用で学級力向上へ

全学級で児童へのアンケート調査を実施。その結果を写真のようなレーダーチャートで示します。「聞く姿勢」「積極性」等の項目に分類された結果を見て、子どもたち自身が学級力を分析。何が課題で、改善には何が必要かを話し合います。



子どもたち自身が学級をメタ認知し、よりよくするための課題を設定します。主体性や自律性、規範意識が生まれます。

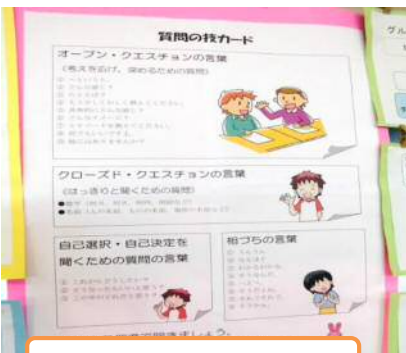
質問力を高め協働的な学びの充実へ

「質問の技カード」と「検定シート」の活用

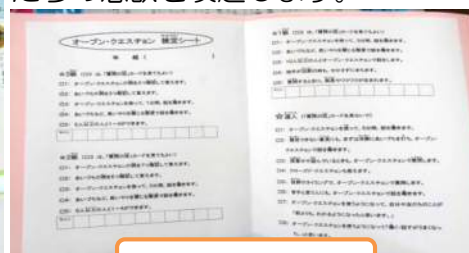
対話型授業を進めるために、子どもたち自身が「問い」の在り方を工夫しています。どのような質問をすると、話題が共有化され、互いの考えが広がったり深まったりするかを考えて、相手に「問い」かけるようにします。

学級では、学年に応じて「質問の技カード」を掲示し、どのような対話を目指していくとよいかを考えられるようにしています。

また、質問力を自ら診断できるよう「検定シート」も作成し、子どもたちの意欲を喚起します。



質問の技カード



検定シート

「ふりかえり」記述の工夫



タイトルを付けた「ふりかえり」

学習の「めあて」が達成できたかの「ふりかえり」を記述する際に、ふりかえる内容を要約した「見出し」を付けさせます。

また、記述する際、「時間」は5分で、「字数」は中学年150字など条件を校内で統一。条件設定することにより、記述力・思考力が向上します。



子どもたちの達成感や充足感を授業の中で高めていくことで、さらなる学びを追究していく姿勢が生まれます。そのためには、全教職員が、課題を可視化して共有し、組織で取り組むことや、アクティブ・ラーニングを展開するために、教師自身がアクティブ・ラーナーであり続けることが大事です。

特別活動の授業改善がすべての教育活動の授業改善に！



小松校長先生

先日、ある児童が朝のスピーチの中でこう語りました。「これまでの僕は、学級に対する思い入れが少なかったと思う。もちろん、これまでも楽しかったけれど、「学級目標」に迫り、自分たちの力でめざす学級や学校生活を創っていききたいとは正直思わなかった。でも、今は違う。**高まる学級を創り、笑顔あふれる学校を自分たちの手で創りたい**と思うのです。卒業までの自分たちができることはまだまだあるように思います。」と。
陵ヶ岡小学校を我が母校として愛するこの言葉が、取組の成果を表していると思っています。

校長先生の言う取組とは、「特別活動」のことです。陵ヶ岡小学校は、特別活動でも特に**話し合い活動**に力を入れ、「とことん比べ合い、みんなで納得」を目指した学級会活動を推進しています。そして、**話し合い活動**を大切に、各教科の中に広げています。その取組から4つのポイントを紹介します。

「話し合いの力」を効果的に育てるための 4ポイント！

1

「話し合い活動の具体的な姿」を明確にする！

「話し合いの力」の育成のために、発達段階に即した目指す話し合い活動の具体的な姿（評価規準）を明確にします。

低学年：教師が進行等の役割を果たすことから始め、少しずつ児童ができるようになる。

中学年：どの児童も司会等の役割を果たし、理由を明確にして意見を言い、異なる考えもしっかりと聞いて公平に判断する。

高学年：話し合いの方法を工夫し、効率的・計画的に運営し、多様な意見の良さを生かす。



2

「話し合う価値のある話題（議題）」を選定する！

話し合う話題を自分たちの問題として捉え、自分たちで解決し、実践に結び付けられるよう、一連の活動の流れをつくっていくことが、児童の問題意識を高めることに繋がります。そのためには児童の実態に即した「**話し合う価値のある(必然性のある)話題**」を選定することが重要です。

こんな話し合いをしました（一例）

- ・「食事の大切さ」→「好き嫌い」や「時間」など給食の課題の克服について話し合う。
- ・「学級マークをつくろう」→デザインや活用方法について話し合う。



3

「しっかり聞く・話す・つなげる」の言語活動を徹底する！

「話し合いの力」の土台となる「**友達の意見をしっかりと聞く。自分の考えを自分の言葉で語る。意見を重ね、繋ぎ、まとめる。**」という豊かな言語力を徹底して育てることが重要です。



4

「出し合う・比べ合う・まとめる（決める）」の段階に沿って！

時間内に児童が話し合いを進めるために、「45分」を意識し、「**出し合う**」⇒「**比べ合う**（理由を発表し、とことん比べ合う事で、みんなで納得する）」⇒「**まとめる/決める**（個人から集団決定へ）」という**段階を明確に**することが重要です。

また、これらの活動を支援する「**板書の工夫(可視化・操作化・構造化)**」は、話し合いを分類・整理し、思考力・判断力を高め、深い学びを進めることに効果的です。



板書 point

- ①意見の多さをマークで示す。②必要に応じて理由を示す。③今、何を話し合っているかが常に分かる。

「話し合いの力」の育成は、全ての教科等の学習の土台に！

陵ヶ岡小学校では、特別活動で育てた「話し合いの力」を、他の教科等の学習の土台として生かし、しっかりと自分の考えを自分の言葉で語り、しっかりと友達の意見を聞き、みんなで意見を重ね、考えを深める学習活動へと繋げています。そして学力も着実に向上してきています。

非認知的能力の大幅改善！

この取組で、全国調査の児童質問紙の「自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりしている」、「自分にはよいところがある」等の項目で肯定的に答えた児童の割合は全国平均より約10～20ポイント高く、「非認知的能力」の改善が見られました。「非認知的能力」は、**新学習指導要領においても重視されており、特別活動の授業改善は、全ての教科の土台であると共に、これからの教育の柱でもあるのです。**

速報！ 全国学力・学習状況調査の結果概要について

◆平均正答率一覧 指数…全国の正答率を100とした場合の値（以下同じ）

本市の（ ）内は、左：都道府県47自治体中の順位、右：指定都市20自治体中の順位

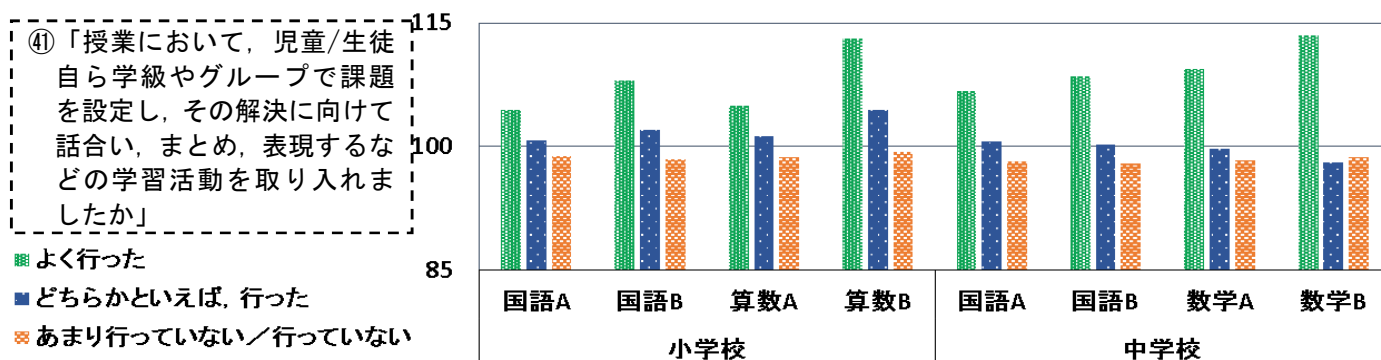
		小学校調査				中学校調査			
		国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
本市	指数	76	59	80	49	78	73	65	49
	順位	101.6 (10位/5位)	102.6 (8位/6位)	101.8 (14位/4位)	106.8 (5位/2位)	100.8 (12位/6位)	101.1 (12位/8位)	100.6 (17位/9位)	101.9 (12位/7位)
全国		74.8	57.5	78.6	45.9	77.4	72.2	64.6	48.1
京都府 (本市除く)		75	58	80	48	78	73	66	49
京都府 (本市含む)		76	59	80	48	78	73	66	49
指定都市 トップ		78 (新潟)	61 (新潟)	81 (新潟・浜松・堺)	50 (川崎)	81 (仙台)	77 (仙台)	68 (仙台・さいたま・静岡・神戸)	52 (仙台)
都道府県 トップ		80 (秋田)	64 (秋田・石川)	85 (石川)	53 (石川)	82 (秋田・石川・福井)	78 (秋田)	73 (福井)	54 (福井)

・小・中学校の全教科で全国平均を上回っていますが、国語、算数・数学ともに指数はB問題よりもA問題の方が低く、課題となっています。

★京都市立学校（小学校・中学校）の結果概要は、京都市教育委員会のHPにも掲載しています★

◆学校質問紙と指数をクロス集計してみると…

・「主体的・対話的で深い学び」を「よく行った」、「どちらかといえば、行った」と回答した小・中学校の指数は「あまり行っていない」、「行っていない」と回答した小・中学校より高い傾向がみられます。特に、B問題ではその傾向が顕著になります。



◆各校においても…

・「京都市小中一貫学習支援プログラム分析システム」を使うと、児童生徒質問紙と児童生徒の正答率のクロス集計ができ、学力と指導方法、学習習慣との関連がみえてきます。各校でも学力状況や生活習慣等を把握・分析のうえ、「学校全体」で傾向・課題・今後の取組等を共有してください。

➡ [光京都イントラ](#) > ●3 各課のページへ > [学校指導課](#) > ●[ジョイントプログラム](#)・[学習確認プログラム](#)

(学びのコンパス創刊号で紹介)

<参考>今後の全国学力・学習状況調査について

年 度	30年度	31年度	32年度
調査教科	国, 算・数, 理	国, 算・数, 英(中のみ)	国, 算・数
日 程	4/17(火)	4/18(木)	未定

★平成31年度以降は、「原則として、火～木曜日のうち4月18日に最も近い日」に実施予定です。正式には実施年度の2年前の9～10月頃に通知予定です。(32年度実施分は30年秋に通知予定)

★ マークがついている内容や掲載している写真等は、光京都イントラの学校指導課のページに記載しています★

[光京都イントラ](#) > ●3 各課のページへ > [学校指導課](#) > ●[子どもたちの学力向上をめざして・学びのコンパス](#)

～取材にご協力いただいた学校の先生方、ありがとうございました！～

ユニークな学力向上実践をされている学校は、学校指導課までお知らせください！



学びのコンパス 平成29年10月・第6号

《発行元》京都市教育委員会指導部学校指導課
小中一貫教育・学校運営企画担当(Tel.222-3801)